「メサイア」歌詞対訳

第 I 部

1. SYMPHONY（オーケストラ）　1. 序曲（シンフォニア）

王の入場に際して演奏された「フランス風序曲」によって全曲が開始される。
この作品において、王はもちろん「メシア」イエス・キリスト。

2. ACCOMPAGNATO（テノール独唱・亀高浩）　2. 伴奏付レチタティーヴォ

Comfort ye, comfort ye My people,
saith your God.
Speak ye comfortably to Jerusalem,
And cry unto her,
that her warfare is accomplish'd,
that her iniquity is pardon'd.
The voice of him that crieth in the wilderness:
Prepare ye the way of the Lord, make straight
in the desert a highway for our God.

「慰(なぐさ)めよ、慰めよ、わが民を」
と、あなたたちの神は言われる。
「語りかけよ、慰(なぐさ)め深く、エルサレムに
そして、呼びかけよ、彼女に、
彼女の苦役(くえき)は終わり、
彼女の罪はつぐなわれた」と。
荒野に呼ばわるものの声がする、
「整(ととの)えよ、主の道を、まっすぐにせよ
荒野にわれらの神のための大路(おおじ)を」。

作品の冒頭に置かれた曲は、全作品を方向付けるほどの慰(なぐさ)めに満ちたアリオーソ。
紀元前 6 世紀に、50 年以上も長い間バビロンに捕囚(ほしゅう)となって苦しんでいたイスラエルの民に、
解放（紀元前 538 年に実現）の預言(よげん)として語られた「イザヤ書」の有名な言葉。
ここでは、イエスの福音の到来(とうらい)を預言(よげん)することばとして歌われている。

3. AIR（テノール独唱・亀高浩）　3. アリア

Ev'ry valley shall be exalted,
and ev'ry mountain and hill made low,
the crooked straight,
and the rough places plain.

すべての谷は高められ、
そして、すべての山と丘は低くされる、
曲がった道はまっすぐに、
でこぼこの所は平坦(へいたん)にされるであろう。

イタリア風アリア。歌詞の内容と音楽とが、ぴったりと寄り添(そ)っている。
「高める」（exalt）ではメリスマで上昇し、「曲がった」（crooked）ではくねくねと、
「平坦(へいたん)に」（plain）では、文字どおり平坦(へいたん)に歌われる。

4. CHORUS

And the glory of the Lord shall be revealed,
And all flesh shall see it together:
For the mouth of the Lord hath spoken it.

4. 合　唱

こうして主の栄光が現わされ、
すべての肉なる者が共(とも)にそれを見る：
主の口が語られたとおりに。

はじめて現れる合唱曲。歌詞の各行にそれぞれ別の旋律(せんりつ)がつけられている。
「神の栄光」が主題ゆえ、3 拍子で作曲されている。（「3」は三位一体の神を象徴(しょうちょう)する）
―――古い時代には、3 拍子を神に関わる「完全拍子」として「〇」で表し、
3 拍子以外を不完全拍子として、「C」（〇が欠けている）で表した。
4 分の 4 拍子が今もCで表示されるのはそのなごり。

5. ACCOMPAGNATO（バス独唱・松尾寿人）

Thus saith the Lord of Hosts;
Yet once, a little while,
And I will shake the heavens, and the earth,
The sea and the dry land;
And I will shake all nations,
And the desire of all nations shall come.
The Lord, whom ye seek,
Shall suddenly come to His temple,
Even the messenger of the Covenant,
whom ye delight in:
Behold, He shall come,
saith the Lord of Hosts.

5. 伴奏付レチタティーヴォ

こう万軍(ばんぐん)の主が言われる；
「もう一度、まもなく、
私は天と地を揺(ゆ)り動かす、
陸地と海をも；
私が諸国民すべてを揺(ゆ)り動かすので、
すべての諸国民の望みのものが来る。
あなたの求めている主が、
不意に彼の聖所(せいじょ)に来る、
事実、聖約(せいやく)の使者が来る、
あなたの楽しみにしている使者が：
見よ、彼は来る」
と、万軍(ばんぐん)の主は言われる。

6. AIR（バス独唱・松尾寿人）

But who may abide the day of His coming?
And who shall stand when He appeareth?
For He is like a refiner's fire.

6. アリア

しかし彼が来る日に誰が耐(た)えられよう、
彼が現れる時、誰が彼の前に立ちえよう。
彼は精錬(せいれん)する火のようであるから。

始めのレチタティーヴォでは、「メシア」来臨(らいりん)の預言(よげん)が語られる。
つづくアリアでは、これを受けて、「メシア」による裁(さば)きの恐ろしさに対する畏怖(いふ)が歌われる。
アリアの中間部（「彼は精錬(せいれん)する火のよう」）では、「焼き尽(つ)くす火」のイメージが
プレスティッシモで激しく表現される。

7. CHORUS

And He shall purify the sons of Levi,
That they may offer unto the Lord
An offering in righteousness.

7. 合　唱

そして彼は、レビの子らを清める、
彼らが主に正しく捧(ささ)げものを
捧(ささ)げるようになるために。

「レビの子ら」とは、エルサレムの神殿に仕える祭司(さいし)階級を指す。
ここでは、メシア（＝救世主）に救われた「信徒」を指し、その「聖化」が歌われている。
――「メサイア」の各曲に、"And" で始まる曲が多い。（「ミサ曲」の "Et" に相当）。
原始キリスト教時代以来の「信仰告白」（ケーリュグマと呼ばれる）に、
「キリストは我らの罪のために十字架にかけられて死なれた、そして葬(ほうむ)られ、
そして三日目に復活された、聖書に記されている通りに」というのがあり、
「そして、そして」というのは、「聖書」の、また、キリスト教徒の口癖(くちぐせ)である。

8a. RECITATIVE（アルト独唱・藤井美雪）

Behold, a virgin shall conceive,
and bear a son,
and shall call his name Emmanuel,
"God with us".

8a. レチタティーヴォ

見よ、乙女が身ごもり、
男の子を産む、
そしてその名をエマヌエルと名づける、
「神がわれらと共に」（の意）。

「イザヤ書」に記されている、有名な「メシア預言(よげん)」。
なお、「イエス」という名は、ヘブライ語で、「神は救いたもう」の意。

8. AIR AND CHORUS（アルト独唱・藤井美雪）

O thou that tellest good tidings to Zion,
Get thee up into the high mountain;
O thou that tellest good tidings to Jerusalem,
Lift up thy voice with strength;
Lift it up, be not afraid;
Say unto the cities of Judah,
Behold your God!
Arise, shine; for thy light is come,
And the glory of the Lord is risen upon thee.

8. アリアと合唱

シオンに良い知らせを伝える者よ、
高い山へと上がれ、
エルサレムに良い知らせを伝える者よ
力を振(ふ)るって声を上げよ；
声を上げて、恐れるな；
語りかけよ、ユダの町々に、
「見よ、あなたたちの神だ！」と。
起きよ、輝け、あなたの光が来る、
主の栄光が、あなたの上に輝く。

アルト独唱につづいて、合唱がアルトと同じメロディーをオクターヴ高く歌い上げる。
イエスキリストの来臨(らいりん)の歓(よろこ)びが、いやが上にも盛(も)り上がる。

9. ACCOMPAGNATO（バス独唱・松尾寿人）

For, behold, darkness shall cover the earth,
And gross darkness the people;
But the Lord shall arise upon thee,
And His glory shall be seen upon thee.
And the gentiles shall come to thy light.
And kings to the brightness of thy rising.

9. 伴奏付レチタティーヴォ

見よ、闇(やみ)が地をおおう、
そして大いなる暗黒が人々をおおう；
しかし、主があなたの上に輝き、
その栄光があなたの上に現れる。
こうして異邦人(いほうじん)らは光へと来る、
そして王たちはあなたに射(さ)し出た
輝きへと来るであろう。

10. AIR（バス独唱・松尾寿人）

The people that walked in darkness
have seen a great light:
And they that dwell in the land of the shadow of death,
Upon them hath the light shined.

10. アリア

闇の中を歩いていた民が
大きな光を見た。
死の蔭(かげ)にすむものたち、
彼らの上に光が輝いた。

つづけて演奏されるバスのレチタティーヴォとアリアでは、暗黒と光との大きい対照が印象深く歌われる。暗黒をうたう箇所(かしょ)では、「歌いにくい減(げん)４度の音程をまじえて、上下絶え間ない気味悪いメロディーは、世界苦を象徴する」と、津川主一は言う。次にくる強大な合唱曲を引き出す、素晴らしいアリア。

11. CHORUS

For unto us a Child is born,
Unto us a Son is given:
And the government shall be upon his shoulder:
And His name shall be called
Wonderful, Counsellor, The Mighty God,
The Everlasting Father, The Prince of Peace.

11. 合　唱

我らのために一人の嬰児(みどりご)が生まれた、
一人の男の子が我らに与えられた：
主権はその肩にある：
そして彼の名はこう呼ばれる、
「不思議！ 弁護者！ 強大な神！
永遠の父！ 平和の君！」。

「全編を通じて、もっとも異色であり、変化もあり、センセーショナルなコーラス」（津川主一）。第１部の中心に位置し、第１部を代表する合唱曲。神の子の誕生を、こんなにも喜ばしく、こんなにも興奮して歌った合唱曲は、他に例を見ない。ヘンデル会心(かいしん)の作。

12. PIFA（オーケストラ）　12. 牧歌（田園曲）

古いイタリアの牧歌によるとみられる、美しい間奏曲。
バッハの「クリスマスオラトリオ第 2 部」の曲頭を飾る「シンフォニア」とともに、
その美しさにおいて、クリスマス音楽の双璧をなす。
ここからは、文字通りクリスマスの情景に移る。

13a. RECITATIVE（ソプラノ独唱・昆野智佳子）　13a. レチタティーヴォ

There were shepherds abiding in the field,
keeping watch over their flock by night.

そこらには羊飼いらが野宿していた、
一晩中、彼らの群れを見張りながら。

13. ACCOMPAGNATO（ソプラノ独唱・昆野智佳子）　13. 伴奏付レチタティーヴォ

And lo, the angel of the Lord
came upon them, and the glory of the Lord
shone round about them,
and they were sore afraid.

すると、見よ、主の天使が
彼らの上に立ち現れ、主の栄光が
彼らを取り巻いて輝いたので、
彼らは大変恐れた。

14a. RECITATIVE（ソプラノ独唱・昆野智佳子）　14a. レチタティーヴォ

And the angel said unto them, Fear not:
for behold, I bring you good tidings of great joy,
which shall be to all people.
For unto you is born this day
in the city of David a Saviour,
which Christ the Lord.

すると天使は言った、「恐れるな：
なぜなら見よ、私は大いなる歓びの
福音をすべての民にもたらしたのだ。
あなたたちのために今日
ダヴィデの町に救い主が生まれた、
主なるキリストが」。

「ルカ福音書」による、イエス降誕の夜の描写。大変生き生きとしている。
———描写されている情景から、イエスの誕生は春だったろうとされる（冬には羊を放牧しない）。
クリスマスが 12 月 25 日とされたのは、ローマ時代の祝日が転用されたもの。
冬至で、夜が長く、光が最も求められる時点に、キリストの福音の光が重ねられたためといわれる。

なお、「キリスト」とは、「救世主」を意味するギリシャ語。ヘブライ語「メシア（油注がれた者）」の訳。
「メサイア」（The Messiah）は、「メシア」の英語読み。

14. ACCOMPAGNATO（ソプラノ独唱・昆野智佳子）14. 伴奏付レチタティーヴォ

And suddenly there was with the angel
a multitude of the heavenly host praising God,
and saying.

すると突如(とつじょ)として、天使とともに
天の大軍勢が神をほめたたえて
言う、

15. CHORUS　15. 合　唱

Glory to God in the highest,
And peace on earth,
good will towards men.

栄光がいと高きところでは神に、
そして地には平安が、
（神の）意にかなった人々に対して。

ここで、神への讃美(さんび)のため、はじめて 2 本のトランペットが鳴り渡る。
最後のところで音楽が徐々に消えていくのは、天使たちが遠ざかる様を描写している。

16. AIR（ソプラノ独唱・川村晃世）　16. アリア

Rejoice greatly, O daughter of Zion;
Shout, O daughter of Jerusalem:
Behold, thy King cometh unto thee;

He is the righteous Saviour,
And He shall speak peace unto the heathen.

大いに喜べ、シオンの娘よ；
叫(さけ)べ、エルサレムの娘よ：
見よ、あなたの王が来る；

彼こそ正義の救い主、
そして彼は異教徒に平和を告げる。

喜びに溢(あふ)れたアリア。ソプラノ独唱の技巧を駆使(くし)した難曲。A－B－Aの 3 部形式。

17a. RECITATIVE（アルト独唱・藤井美雪）　17a. レチタティーヴォ

Then shall the eyes of the blind be opened,
And the ears of the deaf unstopped.
Then shall the lame man leap as an hart,
And the tongue of the dumb shall sing.

その時、盲者(もうじゃ)たちの目は開かれ、
耳の聞こえない者は障害を除(のぞ)かれる。
その時、足なえは鹿のように飛び跳(は)ね、
口のきけない者の舌が歌うであろう。

「イザヤ書」第 35 章に記されている預言(よげん)。キリスト降誕(こうたん)の数世紀前に記された言葉。
それが、イエスの来臨(らいりん)により文字通り実現した、と各福音書著者(ふくいんしょ)は、口をそろえて語っている。

17. DUET（アルト・藤井美雪＆ソプラノ・昆野智佳子）　17. 二重唱

He shall feed His flock like a shepherd;
And He shall gather the lambs with His arm,
And carry them in His bosom,
And gently lead those that are with young,

Come unto Him, all ye that labour
and are heavy laden,
and He will give you rest.
Take His yoke upon you, and learn of Him,
For He is meek and lowly of heart:
And ye shall find rest unto your souls.

彼は羊飼いのように彼の群れを飼い；
彼の腕に小羊たちを集め、
彼のふところに抱いて持ち歩く、
そして子を連れた羊たちを優しく導く。

彼のもとに来なさい、重荷を負って
苦しんでいるものは皆、
そうすれば、彼が休ませてくださる。
彼の軛を負って、彼に学びなさい、
彼は柔和で心が低いから：
そうすれば、あなたは魂の休息を
見いだすであろう。

なんとも慰めに満ちた美しいアリア。
アルトの歌う歌詞は「イザヤ書」から、ソプラノの歌う歌詞は「マタイ福音書」から採られている。

18. CHORUS　18. 合　唱

His yoke is easy, and His burthen is light.

彼の軛は担いやすく、彼の荷は軽い。

第１部をしめくくる合唱曲。イエスの福音の、受け入れやすさを表現している。
———「軛」は２頭の牛を１本の横木でくくりつける棒。「酷使」されることの表象。
イエスの時代には、庶民は、ユダヤ教支配者層から厳しい律法をもって
はなはだしく抑圧されていた。
イエスの福音は、律法を守れない者に対する罪の赦しの福音のゆえに、
貧しい人々や「罪びと」と呼ばれた下層階級の人々に受け入れられた。

休　憩（15 分）

第 II 部

19. CHORUS

Behold the Lamb of God,
that taketh away the sin of the world.

19. 合　唱

見よ、神の小羊、
世の罪を除く方。

第１部は、「メシア」来臨の預言とその実現を歌ったもので、喜びに満ちていたが、
ここ第２部は、イエスの受難の物語となり、音楽も悲痛なおもむきを呈してくる。
この曲は、「第２部の偉大なる悲劇の序章として、まことに比類ない合唱悲曲である」（津川主一）。
付点のリズムが全曲を支配している。ヘンデルは、「十字架」（イエスの苦難と死）を象徴するものとして、しばしば付点のリズム（鞭打ちを表象）を用いる。バッハが、シャープ（♯＝ドイツ語で Kreuz= 十字架を指す）や、X（キリスト）の音形を用いたことが思い起こされる。
この曲の歌詞の出典は「ヨハネ福音書」。洗礼者ヨハネが、イエスを初めて見たとき弟子たちに語った言葉。
「ミサ曲」で歌われるラテン語 "（Ecce,）Agnus Dei, qui tollis peccata mundi" に相当。
「小羊」は、「十字架にかけられたイエス・キリスト」を表象している。

20. AIR（アルト独唱・藤井美雪）

He was despised and rejected of men;
A man of sorrows, and acquainted with grief:

He gave His back to the smiters,
And His cheeks to them that plucked off the hair:
He hid not His face from shame and spitting.

20. アリア

彼は蔑まれ、そして人に棄てられた；
苦しみの人で、悲嘆を熟知していた：

彼をひどく打つ者に背中を任せ、
ひげを抜く者にその頬を任せた。
彼は恥辱と唾から顔を背けなかった。

「全曲を通じて、最も悲痛で感動的なアリア、アルトのための古今の絶唱」（津川主一）、
と評される。「メサイア」全曲の「中心点」とも言うべき名曲。
中間部でオーケストラが奏する付点のリズムは、「鞭打ち」を表象している。

21. CHORUS

Surely He hath borne our griefs,
and carried our sorrows:
He was wounded for our transgressions,
He was bruised for our iniquities;
The chastisement of our peace was upon Him.

21. 合　唱

まことに彼は我らの悲嘆をにない、
我らの苦難を運び去った。
彼は我らの罪のゆえに傷つけられ
彼は我らの背(そむ)きのゆえに打たれた；
我らの平安のための懲罰(ちょうばつ)は彼の上に。

イエスの苦難の意味に対する考察が、この曲から 3 曲つづく合唱曲によって展開される。
「メサイア」の大きな山場(やまば)を形成している。
これら 3 曲の歌詞の出典は、有名な「イザヤ書第 53 章」である。
紀元前 6 世紀、イスラエルのバビロン捕囚(ほしゅう)時代末期に、実際に起きた一人の預言者(よげんしゃ)の
苦難の生涯(しょうがい)が、「メシア預言(よげん)」として語り継(つ)がれたもの。
恐ろしいほどに、イエスの生涯(しょうがい)の事実に合致している。
オーケストラは執拗(しつよう)に「鞭打(むちう)ち」のリズムを刻(きざ)みつづける。

22. CHORUS

And with His stripes we are healed.

22. 合　唱

こうして彼の打ち傷によって、
我らは癒(いや)されたのだ。

曲全体がフーガとして作曲されている。主題の 4 つの音は、十字架の音形を示している。
主題の歌いにくい減(げん) 7 度の下降が、イエスの打ち傷の深刻(しんこく)さを表す。

23. CHORUS

All we like sheep have gone astray;
We have turned every one to his own way;

And the Lord hath laid on Him
the iniquity of us all.

23. 合　唱

我らは皆(みな)羊のように迷い出た；
我らは各々(おのおの)の道に曲がっていった；

そして主は彼の上に置かれた
我らすべての罪責(ざいせき)を。

曲の大部分は、迷い出た羊の収拾(しゅうしゅう)つかない混乱を表象する。
最後のアダージオの部分に入って、俄然(がぜん)、厳粛(げんしゅく)な贖罪(しょくざい)の事実が、深刻無比(しんこくむひ)に歌われる。

24. ACCOMPAGNATO（テノール独唱・有馬雄二郎）24. 伴奏付レチタティーヴォ

All they that see Him laugh Him to scorn:
They shoot out there lips,
And shake their heads, saying,

すべて彼を見るものは彼をあざ笑う。
彼らは唇を突き出し、
頭を振って、言う、

激しい「鞭打ち」のリズムが刻まれる。

25. CHORUS　25. 合　唱

He trusted in God
that He would deliver Him:
Let Him deliver Him,
if He delight in Him.

「彼は神に頼っている、
神が彼を救い出すと：
神に救われればよかろうよ、
彼が神のお気に入りならば」。

厳格なフーガで作曲されているが、内容は、十字架上のイエスを、
バカにし、あざ笑い、侮辱している群集の叫び。

26. ACCOMPAGNATO（テノール独唱・有馬雄二郎）26. 伴奏付レチタティーヴォ

Thy rebuke hath broken His heart;
He is full of heaviness;
He looked for some to have pity on Him,
But there was no man;
Neither found He any to comfort Him.

あなたの非難が彼の心を破った；
彼は重苦に満たされる；
彼は同情を求めて見まわした、
しかし、誰もいなかった；
彼を慰める者を見つけることは
できなかった。

この短いレチタティーヴォで音楽は７つの調性を彷徨する。
よじれるばかりの悲嘆を表現している。

27. ARIOSO（テノール独唱・有馬雄二郎）　27. アリオーソ

Behold, and see if there be any sorrow
like unto His sorrow.

見よ、そして思いみよ、
彼の悲嘆以上の悲嘆があったかどうか。

第２部の始めからつづいてきた、イエスの受難物語の最後に位置するアリオーソ。
深い悲しみをたたえている。

28. ACCOMPAGNATO（ソプラノ独唱・昆野智佳子）

He was cut off out of the land of the living:
For the transgression of Thy people
was He stricken.

28. 伴奏付レチタティーヴォ

彼は生きている者の地から断(た)たれた。
あなた（神）の民の罪ゆえに
彼は打たれたのだ。

イエスの受難をしめくくる曲。受難の理由の再確認。

29. AIR（ソプラノ独唱・昆野智佳子）

But Thou didst not leave His soul in hell;
Nor didst Thou suffer Thy Holy One
to see corruption.

29. アリア

しかしあなた（神）は彼の魂を地獄に棄(す)て置かず、
あなたの聖者に墓穴を見させて
苦しめることはされなかった。

このアリアは、イエスの十字架の苦難から、復活・昇天への転換点になっている。
短調ばかり続いてきた音楽が、ここで長調に転換している。

30. CHORUS

Lift up your heads, O ye gates ;
And be ye lift up, ye everlasting doors;
And the King of Glory shall come in.
　　Who is this King of Glory?
The Lord strong and mighty.
The Lord mighty in battle.
　　The Lord of Hosts,
　　He is the King of Glory.

30. 合　唱

頭を上げよ、おまえ城門よ；
持ち上げられよ、おまえ永遠の扉よ；
栄光の王が入場されるのだ。
　　（城門の中から）栄光の王とは誰？
強大な権能(けんのう)を持った主。
戦いに強い主。
　　（呼応して）万軍(ばんぐん)の主、
　　彼こそ栄光の王。

天上の門における情景。外にイエス一行、城門の中には天使の軍勢。
互いに交唱(こうしょう)している。城門は、（両開きの扉でなく）上下可動の堅固(けんこ)な門。
門に向かって、「開け（頭を上げよ）」と呼びかけている。

31a. RECITATIVE（テノール独唱・有馬雄二郎）

Unto which of the angels said He at any time,
Thou art my Son,
this day have I begotten thee?

31a. レチタティーヴォ

神はかつて天使の誰に言われたか、
「おまえはわが子
　今日私はおまえを生んだ」と。

イエス・キリストの地位が、天使たちを越えていることを示す。
「生んだ」は、「メシアとして信任(しんにん)した」という意味。古代イスラエルの王に対する表象。

31. CHORUS

Let all the angels of God worship Him.

31. 合　唱

すべての神の天使に彼（イエス）を讃美させよ。

キリスト讃美の合唱。主題とその短縮形とが、重なり合ってでてくる二重フーガ。

32. AIR（アルト独唱・藤井美雪）

Thou art gone up on high,
Thou hast led captivity captive:
And received gifts for men;
Yea, even for Thine enemies,
That the Lord God might dwell among them.

32. アリア

あなたは高みに上り、
捕虜を連れ去り：
人から諸々の贈り物を得た；
そうだ、あなたの敵のために、
主なる神が彼らの間に住まわれる。

王の凱旋を歌った古い「詩篇」を引用して、イエスの天上への凱旋を讃えたアリア。

33. CHORUS

The Lord gave the word:
Great was the company of the preachers.

33. 合　唱

主はみことばを与えられる：
「宣べ伝えるものの仲間はたくさんいる」。

神の命により福音伝道者たちが続々と現れ、盛んに活動することになる様子が、
ざわめくがごとくに広がっている。

34. AIR（ソプラノ独唱・川村晃世）

How beautiful are the feet of them
that preach the gospel of peace
and bring glad tidings of good things!

34. アリア

なんと美しいことか彼らの足は
平和の福音を宣べ伝え
良いものの嬉しい知らせを持ち来る人は。

福音伝道者の活動を讃えた美しいアリア。「イザヤ書」に記されたこの言葉は、
現代に至るまで、善き伝道者を讃える信徒の感嘆の声として語り継がれている。

35. CHORUS

Their sound is gone out into all lands,
And their words unto the ends of the world.

35. 合　唱

彼らの声は全地に広まり、
彼らのことばは世界の果てにまで。

イエスの福音が、伝道者たちにより全世界に広められることを歌った合唱曲。

36. AIR（バス独唱・今田陽次）

Why do the nations so furiously rage together:
And why do the people imagine a vain thing?
The kings of the earth rise up,
And the rulers take counsel together:
Against the Lord, and against His Anointed.

36. アリア

何ゆえ諸国民はそんなに激怒し：
民らは空しいことを想い描くのか？
地の王らは起ち上がり
支配者らはともに謀る、
主とそのメシアに逆らって。

メシアの支配に反逆する諸国民を、なぎ倒すがごとくに圧倒するバス・アリア。

37. CHORUS

Let us break their bonds asunder:
And cast away their yokes from us.

37. 合　唱

彼らの枷をぶちこわし、
彼らの軛を投げ飛ばそう。

メシアに反逆する諸国民の叫び声。

38a. RECITATIVE（テノール独唱・有馬雄二郎）

He that dwellth in heaven,
shall laugh them to scorn:
The Lord shall have them in derision.

38a. レチタティーヴォ

天に住んでいる方（神）は
彼らを嘲笑する。
主は彼らをあざ笑う。

38. AIR（テノール独唱・有馬雄二郎）

Thou shalt break them with a rod of iron;
Thou shalt dash them in pieces like a potter's vessel.

38. アリア

あなた（神）は鉄の棒で彼らを砕き；
陶器の破片のように打ち砕く。

神に反逆する者たちの打ち砕かれる様が、小気味良いほどに描写されている。
これにより、全世界が神に服することとなり、次の「ハレルヤコーラス」引き継がれる。

39. CHORUS

HALLELUJAH ! :
For the Lord God Omnipotent reigneth.
The kingdom of this world is become
the kingdom of our Lord and of His Christ;
And He shall reign for ever and ever.
King of Kings, and Lord of Lords.

39. 合　唱

ハレルヤ！
全能の神が統治される。
この世の王国はなった
われらの主とそのキリストの王国に。
そして彼が永遠の永遠まで統治する。
王の王、主の主よ。

「古今無比のコーラス」。世界中の合唱曲で、これ以上に有名な曲はない。

第 Ⅲ 部

40. AIR（ソプラノ独唱・川村晃世）

I know that my Redeemer liveth,
And that He shall stand
at the latter day upon the earth;
And though worms destroy this body,
Yet in my flesh shall I see God.
For now is Christ risen from the dead,
The first fruits of them that sleep.

40. アリア

私は知っている、私のあがない主(ぬし)は
生きておられるのを。彼は立つであろう、
後の日に、この地上に。
うじ虫がこの体を朽(く)ち果てさせても
私の肉にあって神を見るであろう。
今やキリストが死から復活され、
眠ったものの初穂(はつほ)となられたから。

前半は「ヨブ記」の有名なことばから、後半は「コリント人への手紙Ⅰ」から引用。
復活されたイエスの再臨(さいりん)に思いを馳(は)せたアリア。しみじみとした美しい曲。
ヴァイオリンだけが伴奏する。

41. CHORUS

Since by man came death
By man came also the resurrection of the dead.

For us in Adam all die,
Even so in Christ shall all be made alive.

41. 合　唱

一人の人（アダム）によって死が来た、
同じように一人のお方（イエス・キリスト）によって
死からの復活が来た。
アダムによって死が来たくらいなら、
キリストによってすべての人が生かされるのは
当然である。

全曲中唯一のアカペラ（無伴奏合唱）と、全奏とが交互に組み合わされ、
「死」と「生」との対比があざやかに描かれている。

42. ACCOMPAGNIATO（バス独唱・今田陽次）

Behold I tell you a mystery;
We shall not all sleep,
but we shall all be changed,
in a moment, in the twinkling of an eye
at the last trumpet.

42. 伴奏付レチタティーヴォ

見よ、私はあなた方に秘密を告げる；
我らは皆(みな)眠るのではない、
我らは皆(みな)変えられるのである、
瞬時に、まばたきの間に、
終わりのトランペットが鳴り渡る時に。

43. AIR（バス独唱・今田陽次）

The trumpet shall sound, and the dead
shall be raised incorruptible,
and we shall be changed.
For this corruptible must put on incorruption.
And this mortal must put on immortality.

43. アリア

ラッパが鳴り渡ると、死んだ者が
不朽なるものによみがえる、
そして我らは変えられるであろう。
この朽ちるものは朽ちぬものを着、
この死すべき者は不死なるものを
着なければならないのだから。

パウロの「コリント人への手紙Ⅰ」に記されている、復活の希望の詞。
勇壮なトランペット・ソロが伴奏する、ダカーポ形式による長大なアリア。
「メサイア」全曲の中で、代表的なアリアの名曲。

44a. RECITATIVE（アルト独唱・藤井美雪）

Then shall be brought to pass
the saying that is written
Death is swallow'd up in victory.

44a. レチタティーヴォ

その時、出来事として起きるであろう
書かれている言葉が、
「死が勝利に呑まれてしまった」、と。

44. DUET（アルト・藤井美雪＆テノール・亀高浩）

O death, where is thy sting?
O grave, where is thy victory?
The sting of death is sin;
And the strength of sin is the law.

44. 二重唱

おお死よ、お前の刺はどこにあるのか。
おお墓よ、お前の勝利はどこにあるのか。
死の刺は罪であり；
そして罪の力は律法である。

復活の希望を歌い上げた前曲（第 43 曲アリア）を受けて、イエス・キリストによって
克服された「死」にむかって、「お前の勝利はどこ？」と追い討ちをかけている。

45. CHORUS

But thanks be to God,
who giveth us the victory
through our Lord Jesus Christ.

45. 合　唱

まことに感謝すべきかな
私たちに勝利を与えてくださった神に、
主イエス・キリストをとおして。

前曲「二重唱」と同じメロディーを使って、合唱が神への感謝を歌う。

46. AIR（ソプラノ・昆野智佳子）

If God be for us,
who can be against us?
Who shall lay anything
to the charge of God's elect?
It is God that justifieth.
Who is he that condemneth?
It is Christ that died,
yea rather, that is risen again,
who is at the right hand of God,
who makes intercession for us.

46. アリア

もし神が私たちの味方なら、
誰が私たちに敵対できようか？
誰が訴えることができよう
神に選ばれたものを？
神こそが義としておられるのに。
誰が断罪できるか？
死なれたキリストが、
否むしろ、復活された（キリストが）
神の右にあって、
私たちのために執り成していて下さるというのに。

「ローマ人への手紙」の中で、パウロが記した凱歌の詞を、美しく歌い上げたソプラノ・アリア。
ヴァイオリンだけが伴奏。しみじみとした中にも、強い確信がうかがわれる。

47. FINA. CHORUS

Worthy is the Lamb that was slain
And hath redeemed us to God by His blood,
To receive power, and riches and wisdom,
and strength, and honour, and glory, and blessing.
Blessing, and honour, glory and power,
Be unto Him that sitteth upon the throne,
And unto the Lamb for ever and ever.

AMEN. AMEN.

47. 終曲合唱

殺害された小羊にこそふさわしい、
その血をもって神に我らを贖った方、
力、富、智恵、強さ、誉れ、栄光
そして讃美を受けることが。
讃美と栄誉と栄光と権力とが、
玉座に座しておられる神にあれ、
そして小羊に、永遠より永遠に。

アーメン、アーメン。

「あらゆる点から言って最も感動的なコーラス、規模も巨大で、ミケランジェロの大壁画に、
生命を吹き込んだような芸術作品」、と、津川主一は言う。
「アーメンコーラス」と呼ばれる最後の部分は、大規模なフーガ。
ヘンデルの対位法技術の粋を示している。

【対訳・解説　飯田　曉】